

高知県総合企画部政策企画課 御中

高知県地方人口ビジョン等基礎調査委託業務 中間報告書

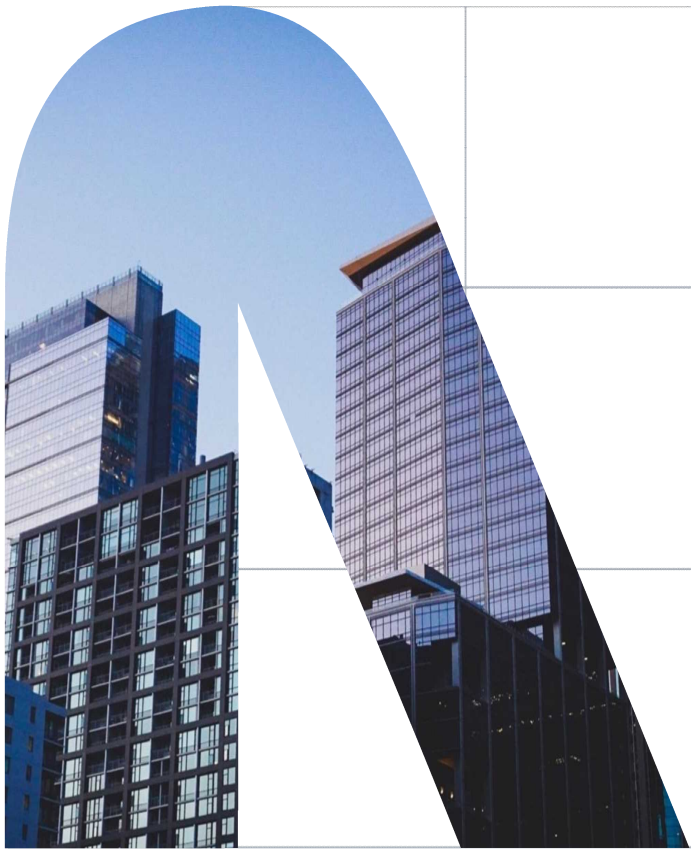
2024年7月31日

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

地域未来デザインユニット

目次

1 高知県の人口動態にかかわる既存調査結果の整理	p.3-6
2 令和6年度就職・進学希望地等意識調査	p.7-12
3 若年層ヒアリング調査	p.13-25
4 考察	p.26-33



1.高知県の人口動態にかかわる 既存調査結果の整理

既存調査整理の論点一覧

論点1 高知県における人口動態はどのようなになっているか

- ①県全体の動態
 - a. 長期的な人口動態はどのような傾向となっているか。
 - b. 貴県の人口ビジョンに対し、現実はどのように推移しているのか。
- ②市町村別の動態
 - c. 高知市等は人口のダムとしての機能を果たしているのか。
 - d. 市町村別の動態（転出に対する転入の割合）に違いはあるのか。（年代、移動要因、転出入先等）
- ③性別、年齢ごとの動態
 - e. 男女別の動態（転出に対する転入の割合）はどうなっているか。
 - f. 若年層の婚姻をめぐる状況はどのように変化しているのか。
 - g. 若年層の出産をめぐる状況はどのように変化しているのか。（年齢階級別出生数、完結出生子ども数などの推移）

論点2 若年層の流出原因は何か

- ①転出のきっかけ
 - a. 若者はどういうきっかけで県外転出をするか。
 - b. 若年層はどのような思い／理由で県外居住を決めているのか。（例：高知県内でも希望を叶えることができるが、より県外の選択肢の方が魅力に感じる）
 - c. 在学中に県外での就職を検討するのはどういった理由からか。（県内在学者、県外在学者）
 - d. 若年層はどのような仕事に魅力を感じる（先進性、社会的意義、雰囲気）のか。そのような仕事は県内にあるのか。
- ②若年女性の転出要因
 - e. 過去の調査では男性の方が転出意向が高いが、結果として女性の転出超過の傾向が強いのはなぜか。
 - f. 女性の流出は固定的性別分担役割意識や地域の因習が原因なのか。
 - g. 仕事における男女格差（賃金、業務内容、キャリアパス）が女性の転出の原因か
- ③将来的なU/Iターン意向
 - h. 県外在住の県出身者が戻ってくるタイミングはいつか。また、戻ってくるのに必要な条件は何か。
 - i. 県外在住の県出身者が戻ってくることをあきらめた、もしくは、決断できないでいる理由は何か。
 - j. 県外から県内の大学等に進学した人の定住意向はどの程度あるか。

論点3 若年層の婚姻及び出産に対する意向の変化の原因は何か

- ①問題構造の把握
 - a. 我が国全体における婚姻率、出生率低下の問題構造と貴県におけるそれは一致するのか。
- ②婚姻に関する意識
 - b. 県内の未婚化、晩婚化の傾向はどうなっているか。
 - c. 若年層の結婚観はどのようか。
- ③出産に関する意識
 - d. 子どもを持ちたいという希望があるか。ない場合はどんな理由か。
- ④婚姻・出産に対する支援制度の整備状況
 - e. 結婚、子育て、女性活躍等に関する支援は当事者のニーズや課題にあっているか。当事者にとって、それは課題なのか。

既存調査整理結果の分析（1／2）

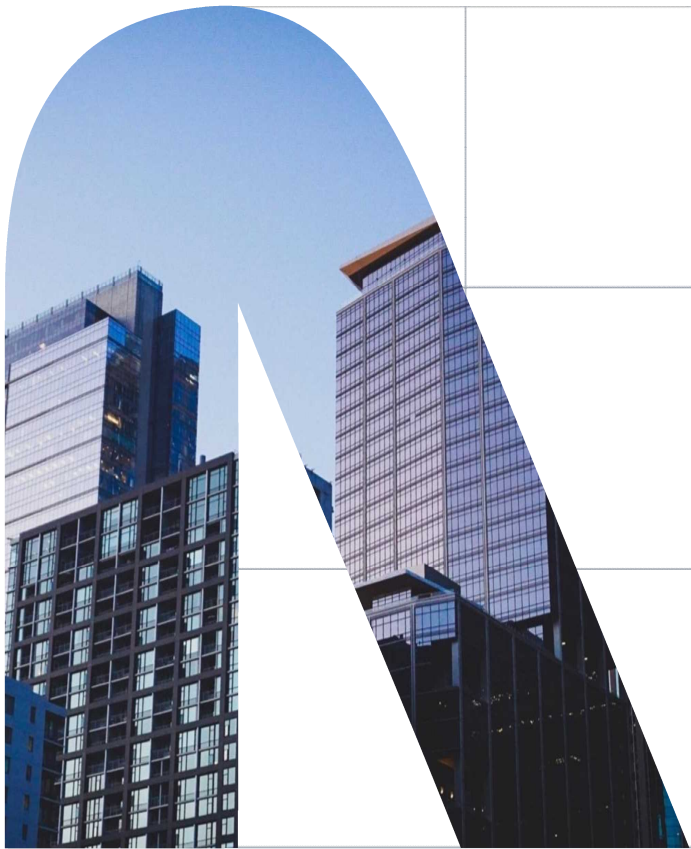
既存の調査整理の結果、各論点についてすでにわかっていることと、論点の問いに答えるために今後把握する必要があることは次のとおり。

論点	既存調査でわかっていること	今後把握する必要があること
2-a 若者はどういうきっかけで県外転出をするか 2-b 若年層はどのような思い、理由で県外居住を決めているのか 2-c 在学中に県外での就職を検討するのはどういった理由からか 2-d 若年層はどのような仕事に魅力を感じるのか。そのような仕事は県内にあるのか	- 県外進学を希望する主な理由として、希望する学校・学部があること、将来の就職に有利であることが挙げられる。 - 県外就職を希望する主な理由として、都会で働きたいこと、給料や待遇が良いことが挙げられる。また、学生が就職したい職業として、公務員や教員、医師や医療系の専門職が挙げられている。 - 学生が企業に求めることとして、社員の人間関係が良いこと、給与や賞与が高いこと、休暇が取りやすいこと、福利厚生制度が充実していることが上位に挙げられている。 - 県内大学に通う学生が高知で就職したくない理由は、都会で働きたいこと、働きたい企業・仕事・業種がないことが挙げられている。	- 県外転出の要因として多く挙げられている「都会で学びたい」「都会で働きたい」「交通アクセスが悪い」という回答では、具体的に都会に何を期待して（求めて）いるのかということが明確でない（論点2-b, c, e） - 若者は主に「社員の人間関係のよさ」や「休暇の取りやすさ」を就職先の企業に求めているが、これらを希望する背景についてはさらなる調査が必要である（論点2-d） 「若者が希望する仕事は県内にあるか」はわかっていないため、県内企業について就職／転職活動時にどんな情報収集を行い、その結果、県内企業に対しどのようなイメージを持っているのかを調べる必要がある（論点2-d）
2-e 過去の調査では男性の方が転出意向が高いが、結果として女性の転出超過の傾向が強いのはなぜか。 2-f 女性の流出は固定的性別分担役割意識や地域の因習が原因なのか。 2-g 仕事における男女格差（賃金、業務内容、キャリアパス）が女性の転出の原因か	- 女性は、給与が少ないこと、交通アクセスが悪いことを高知県に住み続けたくない理由に挙げる人が多い。県出身女性を対象としたヒアリングでは、県内中小企業ではキャリア形成が難しいこと、県外企業でやりがいのある仕事や自由な働き方ができることを挙げる人もいる。 - 日常生活や職場での多くの場面で、女性は男性よりも性別による役割意識を感じている人が多い。	- 女性が県内企業で働くことに対し、賃金面、業務内容面、キャリアパス面でどのように感じているか、またそれが県外転出にどのようなつながっているかについてはさらなる調査が必要である（論点2-g） - 女性が固定的性別分担役割意識を感じる場面についてはわかっているものの、それが転出の直接的な理由となっているかについてはさらなる調査が必要である（論点2-f）
2-h 県外在住の県出身者が戻ってくるタイミングはいつか。また、戻ってくるのに必要な条件は何か 2-i 県外在住の県出身者が戻ってくることをあきらめた、もしくは、決断できないでいる理由は何か 2-j 県外から県内の大学等に進学した人の定住意向はどの程度あるか	- Uターンするために必要な条件として6割超が条件に合う仕事の確保を挙げている。 - Uターンしたくない理由として、給与の高い仕事が少ないことが最多。さらに男性では希望する職種・業種がないことや、現在の仕事を続けたいこと、女性は交通アクセスが悪いことを挙げている。 - 県外在住の県出身者がUターンするタイミングとして、男性は転職や退職後、親の介護を挙げる人が多い。女性も同様だが、男性と比較して結婚、出産等、子育てに関連するタイミングを挙げる人が多い。	- Uターンのための条件について「条件に合う仕事が確保できる」が最も多く挙げられているものの、具体的にそれがどのような条件なのかということについてはさらなる調査が必要である（論点2-h） - 県外出身者で県内の大学に通う学生の定住意向やその理由についてはさらなる調査が必要である（論点2-j）

既存調査整理結果の分析（2／2）

（前頁の続き）

論点	既存調査でわかっていること	今後把握する必要があること
3-b 県内の未婚化、晩婚化の傾向はどうなっているか 3-c 若年層の結婚観はどのようなか 3-d 子どもを持ちたいという希望があるか。ない場合はどんな理由か	- 若年層が結婚しない理由として、適当な相手にまだめぐり会わないこと、自分の収入が安定していないこと、独身の自由さや気楽さを失いたくないこと、将来への不安があることを挙げる人が多い。18～24歳では結婚を選択するにはまだ若すぎる、今は仕事（学業）に打ち込みたいが主な理由として挙げられている。 - 高知県内の若年層の90%以上が子どもを持ちたいと考えており、理想の子供数は「2人」が最も多い。理想の子ども数を持ってない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」「仕事と家庭の両立が難しい」「育児の負担に不安がある」「将来の社会に漠然とした不安がある」が挙げられている。	若者が将来子どもを持ちたいかどうかについて、「持ちたくない」と回答した人の理由についてはさらなる調査が必要である（論点3-d）
3-e 結婚、子育て、女性活躍等に関する支援は当事者のニーズや課題にあっているか。当事者にとって、それは課題なのか	- 結婚支援として、「結婚生活を始める際の金銭的な支援」「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会」が求められている。 - 子育て支援については、18歳～24歳では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」、それ以外の年代では「子育ての負担を軽減する家事支援」が高いニーズを持っている。 - 保育所や幼稚園等に対する要望としては、「保育費用の削減または無料化」「保育士の給与増加」「子どもの年齢に応じた質の高い教育・保育」が挙げられている。 - 女性の職場での活躍には「仕事と家庭を両立しやすい雇用条件」が必要とされており、特に女性はこの点を強く求めている。	結婚、子育て、女性活躍等に関する支援について、それぞれのニーズは把握できているものの、現行施策への評価はさらなる調査が必要である（論点3-e）



2.令和 6 年度 就職・進学希望地等意識調査

調査概要

調査目的	本調査は、高知県人口の将来展望を達成するために必要な社会増減に関する目標に対して要因となる学生の県内定着に係る就職や進学希望等について把握する目的で実施			
調査対象	- 県内の高校で就学している生徒 - 県内の大学・短大・高専で就学している学生 - 県内の専修学校で就学している生徒 - 県出身者で県外の大学等で就学している学生			
調査方法	webフォームによるアンケート調査			
実施期間	令和6年5月28日（火）～令和6年7月10日（水）			
質問項目	【属性】 性別、年齢、学年、入学までの最長居住地、専攻 【進学について】 - 希望の進学先、希望の進学地 - 進学地が県内／県外である理由 - 進学地に県内・県外両方を検討する理由 - 将来的なUターン意向（※県外希望者のみ） 【就職について】 - 希望する職種 - 就職先の企業に希望すること - 就職関係情報の収集方法 - インターンシップへの参加意向や興味のある内容、期待すること - 希望の就職地 - 就職地が県内／県外である理由 - 就職地に県内・県外両方を検討する理由 - 将来的なUターン意向（※県外希望者のみ）			
有効回答率	学校種別	対象数	有効回答数	有効回答率
	県内高校生	5,040	3,779	75.0%
	県内専修学校生	894	648	72.5%
	県内大学生等	2,623	1,053	40.1%
	県外大学生等	203	35	17.2%

結果の概要（進学者、1 / 2）

【進学】

（１）進学者の割合は、県内高校生が80.3%、県内専修学校生が3.1%、県内大学生等が15.8%、県外大学生等が2.9%

（２）進学者のうち、県内を希望する割合は、男性43.5%に対して、女性54.1%と女性の方が高い

	男性	女性
県内希望	43.5%（580人）	54.1%（757人）
県外希望	56.5%（754人）	45.9%（641人）
合 計	（1,334人）	（1,398人）

（３）学校種別ごとの希望進学地

- ① 県内高校生（n=3,035）は、「県外」が44.9%、「県内」が42.0%、「県内・県外両方を検討」が13.0%
- ② 県内専修学校生（n=20）は、「県内」が70.0%、「県外」と「県内・県外両方を検討」が15.0%
- ③ 県内大学生等（n=166）は、「県内」が39.2%、「県内・県外両方を検討」が31.3%、「県外」が29.5%
- ④ 県外大学生等（n=1）では、「県外」が挙げられている

（４）県外進学希望者の進学地

- ① 県外進学地としては、男女ともに、「関西」、次いで「中国・四国」を希望する割合が高い
- ② 男女別では、女性の方がより、本県に近い場所を希望する傾向にある

	男性	女性
中国・四国	25.4%（194人）	31.5%（205人）
関西	43.9%（336人）	44.4%（289人）
関東	17.3%（132人）	15.7%（102人）
その他	13.5%（103人）	8.4%（55人）
合計	（765人）	（651人）

結果の概要（進学者、2 / 2）

【進学】

（5）県内高校生の進学希望地選択の理由

- ① 県内とする主な理由は、「希望する学校・学部があるから」が63.6%、「住み慣れた地域にいたいから」が48.8%、「現在住んでいる地域外の進学はお金がかかるから」が28.2%
- ② 県外とする主な理由は、「希望する学校・学部があるから」が78.0%、「将来の就職を見据えた場合に有利だと思うから」が40.2%、「都会で学びたいから」が33.1%

（6）県外進学希望者における将来的なUターン希望

- 県外進学希望者のうち、将来的なUターン希望が「ある」と「少しある」と回答した割合は、中国・四国地方への進学者で83.4%と、関西地方の72.1%、関東地方の65.0%と比べて、10ポイント以上高くなっている

結果の概要（就職者、1 / 2）

【就職】

（１）就職者の割合は、県内高校生の19.7%、県内専修学校生の96.9%、県内大学生等の84.2%、県外大学生等の97.1%

（２）就職者のうち、県内を希望する割合は、男性58.5%、女性64.4%と過半数が県内就職を希望、特に女性の方が高い

	男性	女性
県内希望	58.5%（431人）	64.4%（533人）
県外希望	41.5%（306人）	35.6%（295人）
合 計	（737人）	（828人）

（３）学校種別ごとの希望就職地

- ① 県内高校生（n=744）は、「県内」が54.6%、「県内・県外両方を検討」が25.5%、「県外」が19.9%
- ② 県内専修学校生（n=628）は、「県内」が49.4%、「県内・県外両方を検討」が32.2%、「県外」が18.5%
- ③ 県内大学生等（n=887）は、「県外」が38.2%、「県内・県外両方を検討」が35.1%、「県内」が26.7%
- ④ 県外大学生等（n=34）は、「県内」が52.9%、「県内・県外両方を検討」が32.4%、「県外」が14.7%

（４）県外就職希望者の就職地

- ① 県外就職地としては、男女ともに「関西」、次いで「中国・四国」を希望する割合が高い
- ② 男女別では、女性の方が「関西」を希望する割合が高い

	男性	女性
中国・四国	28.2%（ 89人）	24.0%（ 75人）
関西	31.6%（100人）	40.1%（125人）
関東	18.7%（ 59人）	18.9%（ 59人）
その他	21.5%（ 68人）	17.0%（ 53人）
合計	（316人）	（312人）

結果の概要（就職者、2／2）

（5）学校種別、男女別の希望職種

学校種別	性別	1位	2位	3位
県内高校生	男性(n=477)	製造系技術職：24.5%	公務員：21.4%	土木・建築系技術職：16.6%
	女性(n=260)	サービス職：19.6%	公務員：18.5%	事務：12.7%
県内専修学校生	男性(n=227)	サービス職：18.5%	公務員：16.7%	I T系技術職：13.2%
	女性(n=391)	サービス職：24.8%	看護師・保健師・助産師：23.5%	保育士・幼稚園教諭：8.4%
県内大学生等	男性(n=357)	その他医療系専門職：20.4%	教員：14.8%	公務員：14.6%
	女性(n=524)	その他医療系専門職：27.9%	公務員：12.8%	教員：11.5%
県外大学生等	男性(n=10)	公務員：30.0%	営業：20.0%	—
	女性(n=24)	企画・マーケティング・管理：25.0%、公務員：25.0%		金融・保険：16.7%

（6）県内就職希望者の傾向

- ① 県内就職を希望する主な理由は、学校種別、男女別に関わらず、「住み慣れた地域にいたいから」、「住んでいる地域が好きだから」を挙げる人が多かった
- ② 就職先の企業に希望するものは、「休暇がとりやすい」（18.1%）、「給与や賞与が高い」（17.3%）、「経営が安定している」（13.8%）の順で多かった

（7）県外就職希望者の傾向

- ① 県外就職を希望する主な理由は、「都会で働きたいから」、「希望する就職先があるから」、「給料や待遇などの労働条件が良いから」を挙げる人が多かった
- ② 就職先の企業に希望するものは、「福利厚生制度が充実している」（18.3%）、「給与や賞与が高い」（18.0%）、「休暇がとりやすい」（14.5%）の順で多かった

（8）県外就職希望者における将来的なUターン希望

- 県外就職希望者のうち、将来的なUターン希望が「ある」と「少しある」と回答した割合は、高校で77.0%、専修学校で71.5%、大学等で51.1%と、学歴が高くなるほど、将来的なUターン希望が低くなっている



3.若年層ヒアリング調査

調査概要

調査の実施概要と調査対象は以下のとおり。

調査概要

目的	貴県における若年人口の増加、婚姻数の増加、出生数の増加に向けた施策検討のために、若年層の県内定着に係る意識について、県外居住を選ぶ（考える）理由と論点を把握する。
実施方法	- グループインタビュー形式にて実施 - インタビューの実施方法は、対象ごとに集合形式及びWeb形式を適宜活用
時間	1 グループあたり60～90分を予定
対象	- 県内外在住の18～34歳の女性 - 居住地、年齢、性別、結婚の有無、子どもの有無などの属性条件に基づきグループ化
調査項目	- 進学タイミングで、県外居住を決めた理由の把握（学びたいこと、大学場所、周囲の影響等） - 就職タイミングで、県外居住を希望する（決めた）理由の把握（希望する業界・職種、勤務地、賃金・給与、就業環境、固定的な性別役割分担意識、周囲の影響等） - Uターンに関する意向や阻害要因、Uターン施策の認知度等の把握 - 交際の方、結婚観・家族観の把握 - 出産・子育てに対する効果的な支援策の把握 - 固定的な性別役割分担意識と仕事・結婚・出産・子育てへの不安との相関関係等

調査対象と完了数

属性構成				人数 ※当初想定	完了数
県外 居住	学生			20	20
	社会人	未婚		20	18
		既婚（子無し）		10	5
	高卒	既婚（子有り）		10	10
		未就学児 小学生以上			
県内 居住	学生			10	11
	社会人	未婚		10	11
		既婚（子無し）		10	8
	高卒	既婚（子有り）		10	11
		未就学児 小学生以上			
合計				100	94

ヒアリング結果（概要）（1 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

1 県外転出の理由

（1）進学時の声としては、以下のような意見が挙げられた。

① 将来の就活時での企業や業種の選択肢の多さを見込んで進学のタイミングから都会の学校を目指す

- 希望する学部（理学部）は県内大学にもあったものの、研究環境などを比較した際に県外大学を選択した。（10代・学生・高知市外出身）
- 希望する学部（文学部）は県内大学にもあったものの、図書館司書の資格取得まで大学でできるのは県外大学であった。（20代・社会人・高知市出身）
- 希望する服飾関係の専門学校は県内にもあったものの、就職時にデザイナーや生産管理の職を目指すとなると県内企業では求人がないかと思い、県外へ進学した。（20代・社会人・高知市外出身）

② 高校時代までの周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さに不満を覚え、多様な価値観や文化に触れるため都会の大学を目指す

- 親や先生、友人などの周りの人が「こうありなさい」と型にはめようとしてくる機会が多く、狭苦しさを感じていた。また、遊ぶところもカラオケやイオン、カフェに限られており、退屈していた。（20代・学生・高知市出身）
- 高校生までの自分の世界が狭いと思い、様々な土地で様々なバックグラウンドを持った人と話をし、多様な価値観に触れたいと思った。（20代・社会人・高知市外出身）
- 生まれてから高知県にいたので、1度違うところに住んでみたかった。自立したい思いがあった。（10代・学生・高知市出身）

③ 本人の強い意向はないものの進学先を偏差値や周囲（親や先生）の意向により県外居住を選択

- やりたいことは決まっておらず、文系の学部の中から自身の学力で目指せる高い偏差値の大学を選んだ。（20代・社会人・高知市出身）
- 当初は県内進学で考えていたが、両親からの勧めで県外進学へ切り替えた（20代・学生・高知市出身）
- 教育学部で県内外の学校を考えていたが、県内大学は受からず、県外の大学へ進学を決めた。（20代・社会人・高知市外出身）

ヒアリング結果（概要）（2 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

1 県外転出の理由

（2）就職時の声としては、以下のような意見が挙げられた。

- ① 「自身のスキルアップ・経験の蓄積を重視する点」や「企業における将来の発展性やチャレンジ精神を求める点」から、県外企業の方が魅力的に感じる

【スキルアップ】

- ・ 県内で希望の業界には就いたものの、その中でやりたい業務内容を県内の企業で実現することが難しかった。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 当初は高知で就活したものの、希望する国際関係の仕事は県内になかった。（30代・社会人・高知市出身）
- ・ 広告業界の営業職に就きたかったが、県内では高卒を対象とした求人がなかった。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 自身が希望する新規事業開発は高知県内企業では実現ができな感じていた。（30代・社会人・高知県外出身）

【将来性・チャレンジ】

- ・ 県内企業は新しいことをしようという意思が弱く、現状維持志向が強いと感じる。（30代・社会人・高知県外出身）
- ・ 高知県内で合同説明会にも参加したが、会社や業務内容の規模感が小さいと感じ、県内での就職は選択肢に残らなかった。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 高知県で安定した職業となると、公務員か教員か銀行員がイメージされる。しかし、安定志向の人でそれらの職業に就けないような人は県外に出て就職せざるを得ない。（20代・社会人・高知市外出身）

② 給与面から就職先を選択

- ・ 県内企業は給与水準が低いことが理由。家賃も安い訳ではないので、県外での就職を考えた。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 就活時には、大企業で給料が平均以上のホワイト企業を志望していた。（20代・社会人・高知市出身）

③ 給与条件だけでなく育児支援に関する制度や社員の理解が進んでいる企業を目指す県外企業の方が選択肢が多い

- ・ 給与やネームバリュー、結婚・出産しても働き続けられる福利厚生を考えると大企業が望ましいため、県内企業は少なく候補として考えなかった。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 結婚・出産した後も仕事が続けられるよう育休制度を重視しており、そうすると大企業の方が制度が充実している印象があり県内企業は選択肢が限られる。（20代・学生・高知市出身）

④ 本人の強い意向はないものの周囲（親など）の意向により県外居住を選択

- ・ 高知県内で自身が就きたいと思うような仕事がなく悩んでいたタイミングで、当時付き合っていた恋人が東京で就職となったため、自身も東京での就職を決めた。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 親もデザイン系の仕事をしており、「県外の方が情報や仕事数も多いため、県外に出た方がよい」と言われていた。そのため、県内でのデザイン系の専門学校卒業後は東京で就職を決めた。（20代・社会人・高知市外出身）

⑤ 高知県で暮らし続けることに不満や不安があるから県外居住を選択

- ・ 県内就職が決まっていたが、当時の恋人と別れたことから県外就職を目指した。県内は若年層が少なく理想とする年収や学歴の相手と出会う機会が少ないため。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 親族や近所の人にプライベートなことまで知られているような窮屈さがあり、早く県外に出ていきたくった。（30代・社会人・高知市外出身）

ヒアリング結果（概要）（3 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

2 進学時・就職時に抱いていた思い

（1）高知県への不満として挙げられた主な点は以下の4点。

① 周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さ

- ・ **人間関係が狭い。**母親が近所の人と他人の噂話をしている姿を見て、違和感を覚えていた。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ いい意味でも悪い意味でも人のつながりが強い。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 少し派手な服を着ただけで注意されるなど**親や近所の人も保守的な人が多く、狭苦しく感じた。**（20代・社会人・高知市外出身）

② コミュニティの狭さ

- ・ **遊ぶ場所が大手量販店に限られ、友人や家族と会うこともあり、コミュニティの狭さを感じる。**（20代・学生・高知市外出身/30代・社会人・高知市出身）

③ 交通の便（県内アクセス・県外アクセスともに）

- ・ 県外などに遊びに行く際も車で何時間もドライブしなければならず、高校生で運転もできない当時はやることもなく退屈だった。（20代・学生・高知市出身）

④ 生活環境（レジャー・娯楽施設の少なさ）

- ・ **遊ぶ場所が大手量販店に限られ、友人や家族と会うこともあり、コミュニティの狭さを感じる。**（20代・学生・高知市外出身/30代・社会人・高知市出身）
- ・ スターバックスなど**チェーン店は高知市内中心部まで行かないとお店がない。それは不便だった。**（10代・学生・高知市出身）
- ・ スポーツ観戦や音楽鑑賞などイベントを気楽に楽しむ環境が無く、物足りなかった。（30代・社会人・高知市出身）

（2）概して、参加者の多くからは高知県の自然や食、住む人の人柄へ好意的な意見を伺えた。

- ・ **高知県はおおらかな人が多く、気に入っている。**（10代・学生・高知市外出身）
- ・ ご近所付き合いなどをみても、**高知県の人は温かいと感じた。**（20代・学生・高知市外出身）
- ・ 道を歩いている時に話しかけられる時があるなど、気さくな人が多いイメージ。**誰でも受け入れてくれる感じはあったと思う。**（10代・学生・高知市出身）
- ・ **いい意味でも悪い意味でも人のつながりが強い。**近所内で一人暮らしの年配の人とかを気遣ってくれるとかのいい面もある。（20代・社会人・高知市外出身）

ヒアリング結果（概要）（4 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

3 将来的なUターン意向

（1）漠然といつかは帰りたい気持ちはあるものの、近い将来ではないという意見が多く挙げられた。その理由としては、主に以下のとおり。

① **自身のスキルアップや経験の蓄積を重視している学生や社会人（未婚）は、高知県では自身の希望を十分に叶えられないと考えている。**

【仕事面】

- ・ **仕事での経験を積むことを考えると新卒のタイミングではない。**故郷なのでいつか戻りたいと思うが、いつ帰るかは具体的に考えてない。**高知で勤めた後、高知県外に転職できるイメージがない。**（20代・学生・高知市出身）
- ・ 戻りたい意向はあるものの、**キャリアアップや仕事面でのスキルアップを考えると今は戻るタイミングではない。**（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 大学卒業後は起業したいと考えており、**高知は人や企業が少なくビジネス規模が小さくなるため、このタイミングで戻ることは考えていない。**（20代・学生・高知市出身）

【仕事面以外】

- ・ 住み慣れていて、家族もいるので帰りたい気持ちはあるが、今帰ると高知県と進学先の世界しか知らず、視野が狭くなるのではないかと。より様々な場所で人や文化と出会いたい。（20代・学生・高知市外出身）

② **子育て女性は、将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会（美術館・博物館など）、趣味の選択肢の多さを考えると、都会での生活を離れられないと考えている。**

- ・ 子育てが終わった30年後頃に戻りたいと思う。**県内には観劇や美術館などの文化施設が少なく、子どもに提供する環境としては物足りない。**子どもも自分と同じく大人になったら県外に出てしまうと考えると、子育て後のUターンがよい。（20代・社会人・高知市外出身）

（2）仕事や暮らしを考えるとUターンはできないと考えている。

- ・ 今のところ、高知に帰る思いはない。**東京に住んで、たまに高知県に帰る距離感がいい。**高知に残っている友人は少なく、**今の仕事や人間関係を手放してまで戻りたいとは思わない。**（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 都心へのアクセスや、**仕事関係での情報収集の機会の多さを考えると高知に戻るつもりはない。**しかし、高知に貢献したい思いがあるので、高知に仕事拠点を置くなどは将来考えてみたい。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ 首都圏で暮らす中で、大都市への交通の便の良さに魅力を感じており、高知県に帰る思いはない。（20代・社会人・高知市出身）

ヒアリング結果（概要）（5 / 7）

（県内居住者からのヒアリング内容）

1 県内居住の理由

（1）就職時の声としては、以下のような意見が挙げられた。

- ① 県外出身者であるが奨学金制度を活用し、県内企業へ就職
- ② 知人や企業からの紹介を契機に県内企業に就職

- ・ **進学の際に県内企業から奨学金を受けていたため、就職で高知県に来た。**それまで高知県には縁もゆかりもなかったが、自身の希望する奨学金の条件を満たす企業が高知県内しかなかった。（20代・社会人・県外出身）
- ・ **高知の知人と仕事関係のイベントを開催したことをきっかけに、自身の就きたい業種（IT系）の県内企業から声掛けしてもらった。**また、タイミングとしても当時大阪での恋人と別れたこともあり、高知県への移住を決めた。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ できれば県外で働きたい意向もあったが、**なかなか求人が出ない高知県内の建築関係の企業を紹介してもらえたので、Uターンでの転職を決めた。**（20代・社会人・高知市出身）

- ③ 家族や友人の近くに居たいから県内に就職
- ④ 住み慣れた地域を離れ、県外で一人で暮らすことへの不安があるから県内に就職
- ⑤ 子育てを考え、実家の近くにUターン

- ・ 親や親戚が皆県内にいるので、見知らぬ土地である県外に出ることは考えていなかった。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ **親や祖父母との距離を考えると高知県から出る思いはない。**（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ 県外に出た友人から保育園に入れないなどの話を聞く中で、**実家の近くに戻る安心感も踏まえてUターンを決めた。**（20代・社会人・高知市外出身）

- ⑥ 趣味を楽しめる環境を重視し移住

- ・ サーフィンが趣味で、県外から5年前に移住してきた。（20代・社会人・県外出身）

ヒアリング結果（概要）（6 / 7）

（県内居住者からのヒアリング内容）

2 高知県への思い

（1）自己成長やチャレンジする機会の提供や支援を求める声が挙げられた。

- ・ 若者が活躍できる場を増やさないと、県内に残る人は一向に増えないと感じる。（20代・学生・高知市出身）
- ・ 自身は県外に住む意向はないが、子どもには、自身の視野を広げるためにも一度は県外居住を経験してほしい。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ 就職では地元が比較的近い都会に戻ることを考えている。就職では自分の裁量が広く、やりがいのある仕事を希望する。（20代・学生・県外出身）
- ・ 高知県は自然が豊かで人が温かいところは好きだが、最終的には地元（県外）に帰りたいという思いがある。現在、教育関係の仕事に携わっているが、（キャリアを積むために）他県でも働いてみたいという思いもある。（30代・社会人・県外出身）
- ・ 比較的安定した職業に就いてはいるが、将来への漠然とした不安がある。IT関連など時代に即した新たなスキルを学びたいが、学ぶ環境が少ない。（20代・社会人・県外出身）

（2）女性のライフスタイルの多様化への理解を求める声として「女性の多様な生き方を認め、それぞれの生き方を支えるような支援をしてほしい（若い女性=結婚・妊娠・子育てに全て繋げないでほしい）」といった意見も挙げられている。

- ・ 結婚や子どもを視野に入れていない若い女性も高知に住んで働いていて、高知に住み続けようと思っていることを考慮してほしい。若い女性=結婚・妊娠・子育てに全て繋げないでほしい。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 婚活の際に、多くの男性が「料理が得意な女性としか結婚を考えていない」という意見を持っていた。高知県はまだ「料理とか家事は女性がするものだ」という考えを持つ人がいるということを感じた。（30代・社会人・高知市外出身）

3 Uターン経験者の思い

（1）自身が望む仕事があるというだけでなく、県内の企業や人と交流する機会がUターンを決断する後押しとなっている。

- ・ 高知の知人と仕事関係のイベントを開催したことをきっかけに、自身の就きたい業種（IT系）の県内企業から声掛けしてもらった。（30代・社会人・高知市外出身）

ヒアリング結果（概要）（7 / 7）

（県外・県内居住者共通のヒアリング内容）

1 パートナーとの出会いに対する思い

- （1）県内では、出会いの機会が少なく、**結婚相手に出会えるか不安を感じている**との意見が伺えた。
- （2）県内における婚活イベントで、**女性への固定的役割分担意識**（例：料理は女性がするもの、結婚したら子どもを持ち育児は女性がするもの 等）を**持つ男性が多く、考え方や価値観が合わない**との意見が伺えた。
- （3）県内においてマッチングアプリを利用しているものの、マッチした相手と距離が離れているケースが多く、交際まで至らないという声も伺えた。

- ・ **結婚や子育てはしたい。ただ、独り身で高知県に戻ると県内で結婚相手に出会えるのかの不安がある。**高知県にいつかは戻りたいと思うが、戻るにしても結婚相手を見つけてからになるかと考える。（20代・学生・高知市出身県外在住）
- ・ **将来的に結婚はしたいが、積極的に婚活をするほどではない。ただ、職場以外での出会いの機会は少ない。**（30代・社会人・高知市外出身県内在住）
- ・ **パートナーをみつけ、子供が欲しいと考えている。**今の居住エリアでは出会いがないが、近々引越す予定である県内の他市では**20、30代の単身の移住者が多いため婚活をしたい。**（30代・社会人・高知市外出身県内在住）
- ・ 数年前、婚活イベントに参加した際、参加者が高圧的な態度で嫌な思いをしたことが何度かあった。**今は結婚への意欲は低い。**（30代・社会人・県外出身県内在住）

2 出産や子育てを見据えた結婚に対する思い

- （1）結婚については、「ふさわしいパートナーがいれば、いつかはしたい」という意見が多く伺えた。こちらの意見の人は、**結婚に対し否定的ではないものの優先度が低い。**
- （2）また、結婚をする意思はないと答えた方の多くが、出産や子育てを見据え、金銭面や時間面で自分の**趣味や仕事に制約がかかってしまうことへの懸念を理由に挙げた。**
- （3）出産や子育てを望む声もある中で、「責任が伴うもの」として不安を抱えている人もいる。それは経済的な面だけでなく、**SNS上の投稿から「自分が自由に使える時間が無くなることでの子育ての辛さ」や「親はこうあるべきだ」といった「責任」の大きさを感じている**との意見が挙がった。

- ・ **結婚はできればしたいが、絶対にしたいという強い思いはない。**（20代・学生・高知市出身県外在住）
- ・ **結婚はしたいと思わない。**結婚の先の出産まで考えたときに、**金銭面や時間面で、自分の趣味や仕事に制約がかかってしまうことに懸念がある。**（20代・学生・高知市外出身）
- ・ **結婚に対する不安はない。ただ、SNSを見ていると「子育て辛い」といった投稿を見かけることも多く子育てに対する不安は増している。**（20代・学生・高知市外出身）
- ・ 結婚や子育てに対して、例えばSNSでよくみる**「親はこうあるべきだ」といった社会から求められる「責任」が大きい**ため不安がある。（20代・社会人・高知市外出身）

若年女性における居住地決定に関わる要因分析

多くの人は人生のターニングポイント（進学、就職/転職、結婚、出産/子育て）の選択と連動して居住地を決定している。

その際、意思決定に影響を与える要因を以下の定義のとおり「主要因」と「プッシュ要因」と名付け整理する。各要因の影響力は人によって濃淡が大きく異なるが、各要因を総合的に判断して居住地を選択している。

区分	定義	各要因
主要因	ターニングポイントと密接に関わり、居住地の決定に影響を大きく与える要因	①学校選択（家庭の経済状況、専門性+将来の就職のしやすさ、難易度） ②仕事 ③パートナーとの居住
プッシュ要因	日々の生活と密接に関わり、多くの場合それ自体では居住地変更まで迫らないものの、ターニングポイントにおいて居住地の変更を促しうる要因	④周囲の価値観 ⑤交通（日常生活） ⑥生活環境 ⑦子育て環境 ⑧パートナーとの出会い ⑨親との距離 ⑩人間関係・コミュニティ ⑪趣味（旅行や推し活等を含む）

各要因における県内/県外志向の傾向（主要因）

区分	ヒアリング内容		解釈
	ポジティブな評価/県内を志向する意見	ネガティブな評価/県外を志向する意見	
① 学校選択 (大学/専門学校等)	- 地域について学べる学部があり、県内各地のフィールドワークに行けるのは楽しい - 家庭の経済事情から県外大学は選択肢にない	- 県内大学は選択肢に限られるとともに、学部も少ない - 県内大学の在学者は県内出身者が多くを占め、都心の大学に比べ多様性に欠ける - 県内大学の立地が悪い - 就職や資格取得を見据えると、県内大学では物足りない	- 県内大学の魅力がないという訳ではない。県外からの志望者もいれば、希望するものの不合格でやむを得ず県外に出る人もいる。 選択肢が少ない（学校自体及び有する学部の双方の観点）という点が県外進学を高める要因となっている。
② 仕事	- 大学の授業で、県内企業の社長などが自身の会社紹介などをする講義があり、熱意のある企業の話は面白い - 高知で新たに農業を始め4年目になるが、新規就農者向けの補助金があり助かった	- 県内企業の給与は低い - 大企業の方が育児支援制度も整っている印象があり、大企業が多い県外の方が魅力に感じる - 自身が成長できる環境を考えると、県外企業の方が成長機会が多いように感じられる - 県外企業に比べ、県内企業はチャレンジ精神に劣るように感じる - 県内で周囲から褒められる職は公務員か教員、銀行員くらいしかない - 企業の選択肢が少なく、転職機会を得られにくい	- 人によって重視するポイントの濃淡は異なるが、若年女性が仕事に求める点として大きく以下が挙げられる。 ➢ 自身が得られる成長機会 ➢ 仕事を通じたやりがいや楽しさ ➢ 働き続けられる安心感（十分な給与や充実した育児支援制度） ➢ 他人から評価を得られる会社のネームバリュー 就活で得られる情報は限られるため、上記の1～3点目について会社規模や業界で判断をしまっているのではないかと推察される。その結果、知名度の高い大手企業が好まれ、県外就職を高める要因となっている。
③ パートナーとの居住	高知県出身の夫と結婚するタイミングで、高知に移住してきた。仕事は夫とともに農業を新たに始めると決めており、今4年目である。	現在付き合っている県外在住男性との結婚を考えているが、県内企業の賃金が低いために、パートナーが移住に踏み切れないでいる。	- 結婚後はパートナーと同居するケースが大半であるが、パートナーが県外在住の場合、パートナーの居住エリアに引っ越す若年女性が多い傾向にある。 - その理由として以下2点がヒアリングから推察される。 ➢ 高知県内でパートナーが望む仕事が見つからない ➢ 女性側が専門職の場合、居住地変更のハードルが低い

各要因における県内/県外志向の傾向（プッシュ要因①）

区分	ヒアリング内容		解釈
	ポジティブな評価/県内を志向する意見	ネガティブな評価/県外を志向する意見	
④周囲の価値観	特に仕事やプライベートでの女性の役割意識への悪いイメージはない。	「こうありなさい」と型にはめようとしてくる機会が多く、狭苦しさを感じていた - 親が他人の噂話をしている姿に違和感を感じていた - 女性のライフスタイルの多様化への理解を求める - 女性への固定的役割分担意識（例：料理は女性がするもの、結婚したら子どもを持ち育児は女性がするもの 等）を持つ男性が多い	- 周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さが県内在住での不満としてある。 - 県内小中学校では同級生の数が少ないため、自身と異なる考え方や価値観に触れる機会が少ない。その機会の少なさが、寛容性・許容度の低さにつながっていると推察される。
⑤交通（日常生活）	高知市内で暮らしている分にはあまり不便さを感じない	- 電車の本数が少なく、通学の際に1時間に1本しか電車が来ないこともある - 車で移動するにしても時間がかかる	主には自動車を持たない（運転できない）学生から不満として多くあがり、Uターンを阻害する要因としての影響力が強い。
⑥生活環境	- スーパーの食材も新鮮でおいしい - 居酒屋のごはんが美味しい	- ガソリン代や家賃は特段安い訳ではないため、生活コストの負担が大きい - 有名チェーン店は市内中心部にしかない - 娯楽施設が少なく、カラオケかカフェイオンに行くしかない	学生と社会人では生活環境に求める内容が大きく異なる。高校生までネガティブに見えていた環境を社会人になってからポジティブに捉え直すケースもある。
⑦子育て環境	- 実家との距離が近く子育ての援助が望める - 子どもが遊び場を地域の人が見守ってくれる安心感がある	- 近くに公園など子どもを遊ばせられる場所が少ない - 子どもの成長を考えると、ある程度育ったタイミングで県外の世界を見せたい - 子どもの数が少なく、中学校までの周囲の友人は選べない - 県内で進学校となると私立しかなく、経済的負担が大きい（場所によっては一人暮らしをさせないといけない）	- 子どもが小さいうちは、子育ての手助け（実家・近所の方）を得られるということで県内在住にポジティブな評価がある。 - 一方、将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会（美術館・博物館など）、趣味の選択肢の幅の広さに不安を抱えている。 - 特に教育については、経済的に豊かであれば、県外を含めた選択肢を提示できるが、経済的な余裕がない場合は県内の限られた選択肢しか提示できず、子どもの可能性を狭めてしまうことへの不安がある。

各要因における県内/県外志向の傾向（プッシュ要因②）

区分	ヒアリング内容		解釈
	ポジティブな評価/県内を志向する意見	ネガティブな評価/県外を志向する意見	
⑧パートナーとの出会い	学生の時の友人と再会してお付き合いし、結婚に至った	- 若年異性と出会う機会がない（とりわけ高知市外は顕著） - マッチングアプリを利用しているものの、マッチした相手と距離が離れているケースが多く、交際まで至らない	- 県外転出の主要因とはならないものの、県内在住者（とくに高知市外）の不安としてある。 - 結婚に対して「いい人がいれば、いつかしたい」と考えている層は、積極的な婚活をしていないためパートナーとの出会いが少ない。 - 一方、積極的に婚活をしている層もマッチングアプリや婚活イベントが機能しない中で出会いの機会に苦慮している。
⑨親との距離	安心できる親の近くで暮らしたい	- 自分の成長のため、親元を離れ一人で暮らしたい - 親と仲が悪いため、親から離れて暮らしたい	親との関係性もあるが、多くは自己成長のため一度は親元を離れ暮らしたいという考えを持っている。その場合は、県外転出の要因とはなるがUターンを阻害する要因とはならない。
⑩人間関係・コミュニティ	地域の人が子どもを温かく見守ってくれており安心感がある	コミュニティが狭く、プライベートな部分まで把握されていることに狭苦しさを感じる	地域のつながりの強さは、性格や自身の状況（学生、子育て中なのか等）によって、良い面・悪い面の捉え方は変わる。そのため、一概に県外転出を促す要因になっているとは言えない。
⑪趣味	- 車でドライブすれば、様々な自然のアクティビティを楽しめる - サーフィンができる環境がいい	ライブ観戦やスポーツ観戦を日常的にできる環境がない	- 一部の人は趣味のために居住地を選択するほど、強い影響力を持つ場合がある。 - 趣味も多様であることから、一概に県外転出を促す要因になっているとは言えない。



4.考察

若年女性の高知県に対する思い

県外転出を決めた若年女性の多くは、高知県に対しポジティブな印象を抱いており、漠然と「いつかは戻りたい」と思っていることがヒアリング調査を通じ分かった。

ヒアリング調査の中で多くの人が答えたポジティブな意見

<人間関係>

- ・ **高知県はおおらかな人が多く、気に入っている。**
- ・ ご近所付き合いなどをみても、**高知県の人は温かいと感じた。**
- ・ 道を歩いている時に話しかけられる時があるなど、**気さくな人が多いイメージ。誰でも受け入れてくれる感じはあったと思う。**

<生活環境>

- ・ **自然が豊かでご飯が美味しい。**
- ・ 車でドライブすれば、**様々な自然のアクティビティーを楽しめる。**

<文化>

- ・ よさこい祭りなど**地域が一丸となって盛り上がるイベントがあり、住んでいて楽しい。**
- ・ 生産者と近い距離で買い物ができる**日曜市は、大人になってからすごい好きになった。**

<Uターン意思>

- ・ 高知は好きなため、いつかは戻りたいと思っている。

参考)「地方創生のファクターX 寛容と幸福の地方論」調査結果

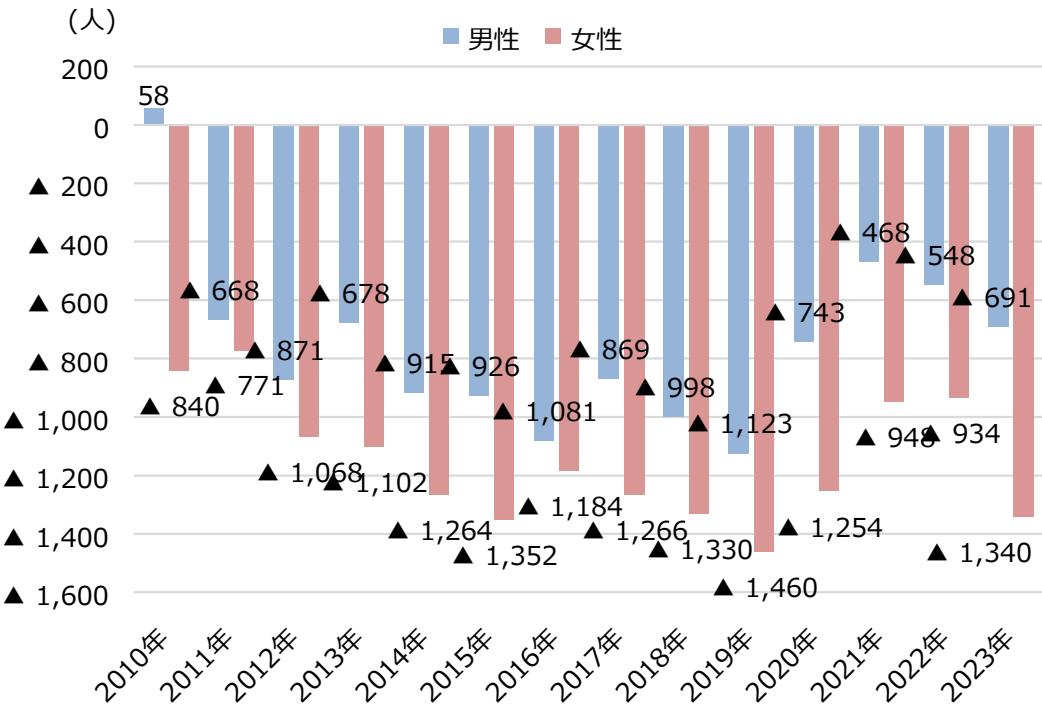
- **高知県出身女性のUターン意向は全国的にみても高い**
：既婚女性 全国7位 未婚女性 全国13位

出典：「地方創生のファクターX 寛容と幸福の地方論」LIFULL HOME'S総研（2021.9）
https://www.homes.co.jp/search/assets/doc/default/edit/souken/PDF2021/homes_factorX.pdf

高知県における人口動態（若年女性の県外転出について）

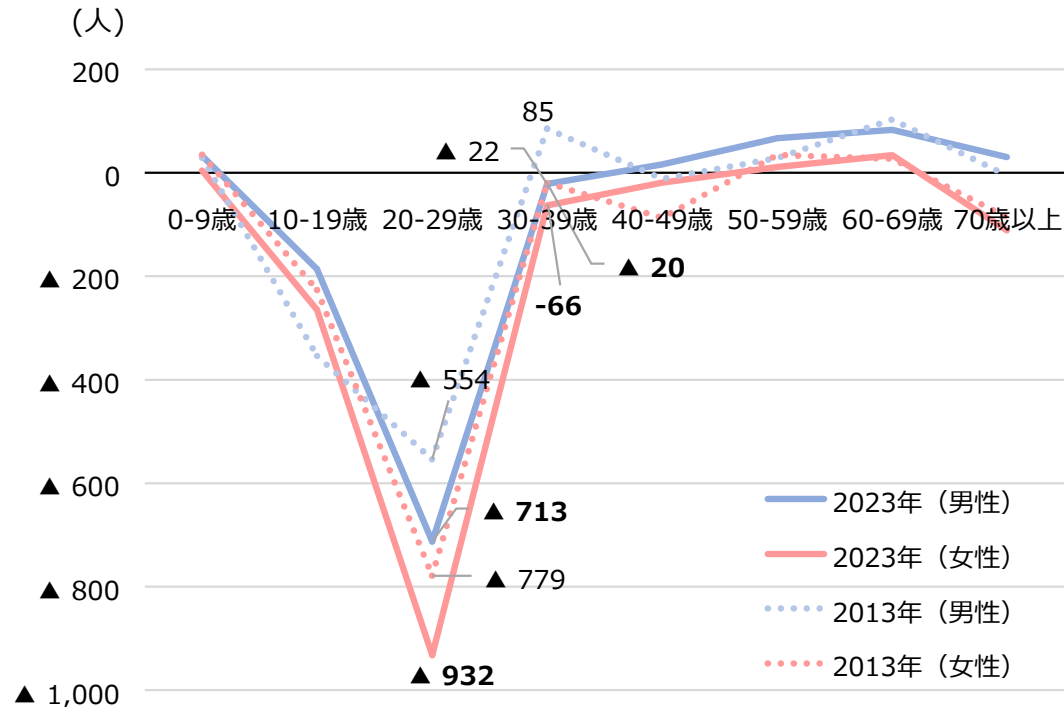
高知県に対しポジティブな印象を抱いており、漠然としたUターン意思はあるものの、実際には若年女性の県外転出の傾向は強く、Uターン数も少ない状況である。

高知県の男女別の転出超過数推移 ※再掲



出所 「高知県の人口等の状況について（第1回検討会資料）」を基に作成。図表中の数字がマイナスだと転出超過と表している

男女別・年代別の転出超過数（2013年・2023年比較）※再掲



出所 住民基本台帳人口移動報告を基に作成。図表中の数字がマイナスだと転出超過と表している

高知県における若年女性の県外転出・Uターン阻害の要因①

若年女性の高知県への思いと実際の県外転出・Uターンの乖離を生む要因について分析する。
P22にて整理した「主要因」と「プッシュ要因」の各要因が、若年女性の県外転出・Uターン阻害とどの程度関連性があるかを既存調査/希望地等意識調査も踏まえ、以下のとおり整理する。

区分		既存調査/希望地等意識調査から分かること	若年層ヒアリングから分かること (再掲)	県外転出/Uターン阻害との関連性
主要因	①学校選択 (大学/専門学校等)	- 県内学生（女性）の40.1%が県外進学を希望している。 - その理由として「希望する学校・学部があるから」（40.3%）が最も多く、「将来の就職を見据えた場合に有利だと思うから」（18.8%）「都会で学びたいから」（13.8%）が続いた	- 県内大学の魅力がないという訳ではない。県外からの志望者もいれば、希望するものの不合格でやむを得ず県外に出る人もいる。 - 選択肢が少ない（学校自体及び有する学部の双方の観点）という点が県外進学を高める要因となっている。	以下の2点から県外転出を促す要因となっている。 ➢ 学校自体及び有する学部双方の観点で、選択肢が少ない ➢ 将来の就職のしやすさは県外大学の方が勝って見えている
	②仕事	- 学校種別ごとの女性の県外就職希望率は以下のとおり。 ➢ 県内高校生：16.2% ➢ 県内専修学校生：19.4% ➢ 県内大学生等：33.2% ➢ 県外大学生等：12.5% - 全ての学校種別において、就職する企業に希望するものとして、「休暇が取りやすい」、「給与や賞与が高い」、「経営が安定している」、「福利厚生制度が充実している」が上位にあがっている。	- 人によって重視するポイントの濃淡は異なるが、若年女性が仕事に求める点として大きく以下が挙げられる。 ➢ 自身が得られる成長機会 ➢ 仕事を通じたやりがいや楽しさ ➢ 働き続けられる安心感（十分な給与や充実した育児支援制度） ➢ 他人から評価を得られる会社のネームバリュー - 就活で得られる情報は限られるため、上記の1～3点目について会社規模や業界で判断をしてしまっているのではないかと推察される。その結果、知名度の高い大手企業が好まれ、県外就職を高める要因となっている。	以下の点から県外転出を促す要因となっている。 ➢ 若年女性が仕事に求める点に対し、県内で希望を叶えられる企業が少ないイメージをもたれている
	③パートナーとの居住	高知県外在住女性の転出きっかけとして「結婚」が9.1%、「配偶者の仕事の都合」が4.0%であった。（人口移動に関する意識調査実施報告書より）	- 結婚後はパートナーと同居するケースが大宗であるが、パートナーが県外在住の場合、パートナーの居住エリアに引っ越す若年女性が多い傾向にある。 - その理由として以下2点がヒアリングから推察される。 ➢ 高知県内でパートナーが望む仕事が見つからない ➢ 女性側が専門職の場合、居住地変更のハードルが低い	若年女性の県外転出者のうち、パートナーとの居住を理由とする層は一定数（約1割程度）おり、県外転出を促す要因となっている。

高知県における若年女性の県外転出・Uターン阻害の要因②

区分		既存調査/希望地等意識調査から分かること	若年層ヒアリングから分かること (再掲)	県外転出/Uターン阻害との関連性
プッシュ要因	④周囲の価値観	既存調査/希望地等意識調査からは把握できず	・ 周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さが県内在住での不満としてある。 ・ 県内小中学校では同級生の数が少ないため、自身と異なる考え方や価値観に触れる機会が少ない。その機会の少なさが、寛容性・許容度の低さにつながっていると推察される。	寛容性・許容度の低さに対し不満を抱く人にとっては、 県外転出/Uターン阻害に大きく影響を与える要因となる。
	⑤交通(日常生活)	・ 県外居住女性が回答した「県外転出した若年層が高知県に住み続けたくない理由」において、「交通のアクセスが悪いから」と回答した人は27.9%にも上る。(人口移動に関する意識調査実施報告書より) ・ また、県外居住女性がUターンしたくない理由として「交通のアクセスが悪いから」と回答した人は49.3%にも上る。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	・ 主には学生から不満として多くあがり、Uターンを阻害する要因としての影響力が強い。	・ 主には自動車を持たない学生において県外転出を促す要因となっている。 ・ 交通アクセスの悪さはUターンを阻害する要因としての影響力も強い。
	⑥生活環境	・ 県外居住女性がUターンしたくない理由として「買い物環境が悪いから」と回答した人は7.5%に留まる。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	・ 学生と社会人では生活環境に求める内容が大きく異なる。高校生までネガティブに見えていた環境を社会人になってからポジティブに捉え直すケースもある。	主に学生において 県外転出を促す要因となりうる。

高知県における若年女性の県外転出・Uターン阻害の要因③

区分		既存調査/希望地等意識調査から分かったこと	若年層ヒアリングから分かったこと (再掲)	県外転出/Uターン阻害との関連性
プッシュ要因	⑦子育て	県外居住女性が回答した「県外転出した若年層が高知県に住み続けたくない理由」において、「子育て環境が悪いから」と回答した人は3.3%に留まる。（人口移動に関する意識調査実施報告書より）	- 子どもが小さいうちは、子育ての手助け（実家・近所の方）を得られるということで県内在住にポジティブな評価がある。 - 一方、将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会（美術館・博物館など）、趣味の選択肢の幅の広さに不安を抱えている。 - 特に教育については、経済的に豊かであれば、県外を含めた選択肢を提示できるが、経済的な余裕がない場合は県内の限られた選択肢しか提示できず、子どもの可能性を狭めてしまうのではないかと考えている。	将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会（美術館・博物館など）、趣味の選択肢の幅の広さに不安があるものの、 県外転出を強く促すほどではない。
	⑧パートナーとの出会い	出会いや結婚に関する支援として、「結婚生活を始める際の金銭的な支援」が最もニーズが高く、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が続く。（出会いから結婚・子育てまでの切れ目ない支援のための県民意識調査より）	- 県外転出の主要因とはならないものの、県内在住者（とくに高知市外）の不安としてある。 - 結婚に対して「いい人がいれば、いつかしたい」と考えている層は、積極的な婚活をしていないためパートナーとの出会いが少ない。 - 一方、積極的に婚活をしている層もマッチングアプリや婚活イベントが機能しない中で出会いの機会に苦慮している。	出会いの機会の少なさは不安としてあるものの、県外転出を強く促すほどではない。 - 結婚を望む女性にとっては、Uターンを阻害する要因となりうる。
	⑨親との距離	県内居住を志望する理由について「親と同居または近くで暮らしたいから」と回答は約2割ほど。その一方、県外居住を志望する理由として「親から自立したから」の回答も3割ほど。（令和6年度希望地等意識調査より）	親との関係性もあるが、多くは自己成長のため一度は親元を離れ暮らしたいという考えを持っている。その場合は、県外転出の要因とはなるがUターンを阻害する要因とはならない。	一概に県外転出を促す要因とは言えない。
	⑩人間関係・コミュニティ	県外居住女性がUターンしたくない理由として「人間関係が煩わしいから」と回答した人は11.9%ほど。（人口移動に関する意識調査実施報告書より）	地域のつながりの強さは、性格や自身の状況（学生、子育て中なのか 等）によって、良い面・悪い面の捉え方は変わる。そのため、一概に県外転出を促す要因になっているとは言えない。	ヒアリング調査を通じると県外転出を強く促す要因とは言えないものの、既存調査からはUターンしたくない理由として一定数が挙げている。
	⑪趣味	県外居住女性がUターンしたくない理由として「娯楽・レジャーの場が少ないから」と回答した人は14.9%ほど。（人口移動に関する意識調査実施報告書より）	- 一部の人は趣味のために居住地を選択するほど、強い影響力を持つ場合がある。 - 趣味も多様であることから、一概に県外転出を促す要因になっているとは言えない。	一概に県外転出を促す要因とは言えない。

現時点での対策案（まとめ）

県外転出・Uターン阻害に大きく影響を与える要因について、対策案を以下のとおり整理した。
今後、有効かつ実現可能な施策案の検討につなげる。

影響を与える 要因	県外転出/Uターン阻害の観点	対策案
①学校選択 (大学/専門学校等)	- 学校自体及び有する学部双方の観点で、選択肢が少ない - 将来の就職のしやすさは県外大学の方が勝って見えている	- 希望する学部が県外にしかないため県外進学する層に対し、就職のタイミングでUターンが選択肢にあがるようアプローチを行う - 将来の就職につながるカリキュラムの検討（インターンシップを兼ねた実習授業など）
②仕事	若年層が仕事に求める点に対し、県内で希望を叶えられる企業が少ないイメージをもたれている	- 大学までの学校教育において、地域内の企業や人と関わる機会を設けることで学生の視野を広げ、地域の産業や企業についての理解を深める - 地域における仕事の変容（地域企業における働き方や事業マインドの変容） - 地域企業で得られるやりがいや将来の発展性などを官民連携して発信 - 転職者（Uターン者）向けに県内企業の雰囲気や業務内容を理解してもらう仕組み作り（転職者向けインターンシップ制度など）
③パートナー との居住	高知県内でパートナーが望む仕事が見つからない	パートナーがこれまで蓄積した経験やスキルに対し、県内企業がオファーを出すような仕組みづくり（県内企業とのマッチング）
④周囲の 価値観	周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度が低く、狭苦しさを感じる	- 従来の生活様式と異なる生活を実現できる環境（地方における一人暮らし支援など） - 大学までの学校教育において、地域外の人や文化と関わる機会を増やすことで、自身と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度を高める

（試案）【若年女性タイプ別】重視する要因と対策の方向性

若年女性の価値観や考え方の傾向について6タイプに大別できることが、ヒアリングを通じて分かった。各タイプが重視する要因と県外転出・Uターン阻害への対策の方向性を以下のとおり整理する。

タイプ	特徴	重視する要因	県外転出のタイミング (傾向)	対策の方向性
チャレンジ型	自身のやりたい事・目指したいものが明確に決まっており、それに向かって努力するタイプ	①学校選択、②仕事 ④周囲の価値観 ⑨親との距離	進学、就職	やりたい事が県外にしかない場合は対策を打つことが難しい
自己成長型	やりたい事は明確に決まっていなものの、自身のスキルや知見を高めることに意欲的なタイプ	①学校選択、②仕事 ④周囲の価値観	進学、就職	県内でも自己成長やスキルの向上につながる環境があることを提示
自立型	親や周囲から自立することを重視するタイプ	①学校選択、②仕事 ⑨親との距離	進学、就職	自立のため一旦県外に出ることは対策を打つことが難しい 将来的なUターンを促す対策が有効
安定志向型	仕事においては一定水準の給与で長く働くことを重視し、そのために資格取得などの努力もするタイプ	①学校選択、②仕事 ③パートナーとの居住 ⑦子育て、⑧パートナーとの出会い、⑩人間関係・コミュニティ	進学、就職、結婚	県内において安定して働ける企業のイメージが固定化されている中で、県内企業のPRが必要である
保守型	環境の変化を好まず、自身の与えられた環境（選択肢）の中で生きるタイプ	③パートナーとの居住 ⑥生活環境、⑦子育て ⑨親との距離、⑩人間関係・コミュニティ	結婚	県内志向の傾向が強く、対策の優先度は低い
趣味重視型	自身の趣味を重視し、そのためには他の要因を犠牲にすることもないタイプ	⑤交通（日常生活） ⑪趣味	進学、就職	多様な趣味がある中で一律に有効な対策を打つことは難しい